

三浦皇成騎手が JRA 新人年間最多勝記録を更新!

——スーパールーキーがもたらす驚きと楽しみ

と てもない新人騎手が現れた。三浦皇成騎手は、10月25日、福島競馬第1レースで70勝目を挙げ、武豊騎手がつくった新人最多勝記録を21年ぶりに更新した。それからも彼は勝ちつづけ、11月9日終了時点で83勝。「新人100勝」の舞台が見えてきた。

今年の2月中旬、デビューを半月後に控えた三浦皇成騎手と、師匠の河野通文調教師にインタビューさせてもらった。

「こいつは近い将来、日本の騎手界を背負って立つ存在になりますよ」と

と河野師。競馬学校の教官も騎乗技術を絶賛しており、本人と話すとも、ものすごく頭のいいことがわかる。5歳のときから騎手にな

りたいと思っていた彼は、小学校4年生のとき「騎手になるにはバランス感覚の鍛練が必要だ」と思い、自分から両親に頼んで器械体操のスクールに通うようになったという。

デビューした3月1日、トリッキーな中山芝2500mで初勝利を挙げた彼は、4月20日、新人時代には武豊騎手や福永祐一騎手でさえしたことがない、一日全12レース騎乗をやつてのけた。

彼がこれほど多くの騎乗馬に恵まれたのは、河野師の尽力によるところが大きい。「うちの皇成をよろしくお願いします」と、関係者に頭を下げる師は、三浦騎手を起用してくれた調教師に、必ずお礼の電話を入れている。

師の期待にこたえて勝ち鞍をかさねた彼は、



●三浦皇成騎手と武豊騎手のデビュー年度10勝単位到達日

	10勝	20勝	30勝	40勝	50勝	60勝	70勝
三浦皇成	4月19日 (68戦目)	5月24日 (172戦目)	7月5日 (280戦目)	8月3日 (369戦目)	8月24日 (433戦目)	9月27日 (528戦目)	10月25日 (586戦目)
武豊	5月17日 (121戦目)	6月13日 (170戦目)	8月2日 (269戦目)	8月29日 (319戦目)	10月3日 (379戦目)	12月5日 (494戦目)	12月27日 (554戦目)

※武豊騎手は69勝到達日

●新人騎手のデビュー年JRA勝利数(50勝以上)

	デビュー年	勝利数
三浦皇成	2008年	83
武豊	1987年	69
加賀武見	1960年	58
福永祐一	1996年	53

※2008年11月9日終了時点



断然人気のユビキタスを差しきって69勝目を挙げた10月11日の東京第11レース・ベルセウスS(レース映像は今月号のDVDに収録されています)



10月25日の福島第1レースを制しJRA新人年間最多勝記録を更新。騎乗馬のアドバンスヘイローは、師匠である河野通文調教師の管理馬

54だったのに対し、三浦騎手が69勝したときのそれは562。勝率、連対率ともに武騎手のほうがいいが、そう大きな差ではない。武騎手が新人だったころは今と出馬投票のシステムがちがいが、1人の騎手が1日に数多く騎乗するのが難しかった。が、今は、外国や地方からトップジョッキーが参入してくるようになり、別の意味で新人には厳しい時代だ。21年前にそれだけ勝った武騎手も、今これだけ勝っている三浦騎手も、立派である。

スポーツ選手は「粗削りで未完成」なほうが将来大きく伸びる、というイメージがあるが、三浦騎手は、現時点でもかなりのレベルまで完成された印象を受ける。抜群のスタートを切つて、周囲をよく見ながらポジションを早めに固定し、「ここ」というところで意のままに馬を反応させ、力強く追う。位置取りや仕掛けのタイミングからは新人離れた冷静さを感じられる。つねに冷静でいられるからこそ、これだけ数多く乗っているのに騎乗停止がないのだろう。

完成度が高いからといって、伸びる余地が少ないわけではない。逆に、このままキャリアを積んで、さらに完成度を高めていったらどうなるのか……と思うと、未だ恐ろしい感じがする。

「期待はしていましたが、正直、ここまでやつてくれるとは思いませんでした」と言う河野師は、来年あたり、彼を海外で騎乗させる心づもりでいる。

師が思っていた以上の器だったスーパールーキーは、異国の荒武者たちと腕を競うことによつて、さらにスケールアップするだろう。今以上に規格をはみ出した「騎手・三浦皇成」は、私たちにどんな驚きを与えてくれるのだろうか。

8月24日、史上最速で50勝をマークしたころから、新人最多勝記録の更新を意識しはじめたという。

三浦騎手が新人最多勝タイ記録となる69勝目を挙げた10月11日、私はふたつの意味で驚かされた。ひとつは、バンブーエールで勝ったベルセウスSにおける戦略の緻密さと騎乗の巧みさだ。相手をユビキタス一頭に絞る、「目標にされるのではなく、逆に目標にしないで」と考え、仕掛けどころであえて下がり、直線、外に持ち出して差し切つた。

もうひとつのサプライズは、その日、久しぶりに間近で見た彼の肉體である。胸板の厚みが増し、ウエストがギュッと締まった逆三角形の上半身は、あどなげさの残る顔には似つかわしくないほど逞しくなつていた。デビュー前に計測したころより、身長が2センチほど伸び、体重が2.5kgほど増え、164cm、48kgになったという。

翌12日は、朝から最終レースまで、東京競馬場が「三浦皇成祭り」のような状態になつた。彼が騎乗した9レースすべてに武豊騎手が騎乗する「直接対決」は実に見応えがあつた。結果は、すべて武騎手が先着し、5勝。三浦騎手がコメントしたように「先輩の洗礼を受けた」形になつたが、日本の競馬界に「武豊対三浦皇成」という新たな見どころができた、記念すべき日となった。

中1週置いて、三浦騎手が新人最多勝記録を更新した同日25日のことだ。福島競馬場の平場のレースで、三浦騎手を競り落としたバテラン騎手が、ゴールと同時にガッツポーズをした。スーパールーキーの登場が、レースにさらなる緊張感をもたらしたことを示すワンシーンと言えよう。

87年に69勝を挙げた武豊騎手の騎乗数が5

- 三浦皇成騎手 新人最多勝記録更新までの道程
- 2月12日 競馬学校を卒業。模範賞、アイルランド大使特別賞を受賞
 - 3月1日 2回中山1日目第1レースにモエレロングランでJRA初騎乗、16頭立ての6着。3戦目の第10レース瀬来特別をフェニコンでJRA初勝利。デビュー3戦目での特別競走勝利は、94年にデビューした植野貴也騎手と並びJRA最速
 - 3月2日 中山記念(GII)で重賞初騎乗(トラストジューgem)の予定であったが、同日第8レースで落馬負傷したため、中山記念は騎手変更
 - 3月16日 中山牝馬S(GIII)で重賞初騎乗(マルノマンハッタン)、16頭立ての16着
 - 4月20日 1回福島4日目で1日全レースに騎乗。デビュー年に1日全レースに騎乗をしたのは初めてのこと
 - 5月25日 24、25日の1回新潟競馬第4節の全24レースに騎乗。1日全レース騎乗、は新人としては初めての記録。過去にも藤田伸二騎手、柴山雄一騎手、中館英二騎手の3人しか達成していない。なお三浦騎手は、8月23日、24日の1回札幌競馬第2節でも全24レースに騎乗した
 - 8月10日 函館2歳S(JpnIII)をフィフスペトルで制し、重賞初制覇。デビュー年のJRA重賞制覇は98年の池添謙一騎手以来
 - 8月17日 1回札幌2日目第10レース小樽特別をメジロフォーナで勝利し、16、17日の1日6勝。を記録。デビュー年の1日6勝、は競馬学校卒業者としては初めてのこと
 - 9月15日 2回札幌2日目第12レースでボウダレスワールドに騎乗し54勝目を挙げ、福永祐一騎手のデビュー年勝利数(53勝)を上回る
 - 9月21日 2回札幌4日目第8レースでアーネストリーに騎乗し59勝目を挙げ、加賀武見騎手のデビュー年勝利数(58勝)を上回る
 - 9月28日 前日の2回札幌5日目第12レースのダッシュアキチャン(1着)から2回札幌6日目第10レースのアースコマンド(1着)まで、騎乗機会8連続連対。JRAにおける騎乗機会連続連対記録は武豊騎手(02年)と安藤勝己騎手(05年)が達成した9連続連対だが、新人騎手としての騎乗機会8連続連対。はJRA史上初
 - 10月5日 スプリンターズS(GI)にプレミアムボックスで参戦し、GI初騎乗。この日までの三浦騎手のキャリアは7か月5日。これはGI最速騎乗記録。これまでの記録は福永祐一騎手のデビューから7か月19日での秋華賞騎乗(96年)だった
 - 10月11日 4回東京1日目第2レースでマイネルクロッシュに騎乗。デビューからの騎乗数を555とし、JRA新人年間最多騎乗記録を更新(これまでの記録は武豊騎手の554)。第7、8、9、11レースの騎乗機会4連勝を挙げ、武豊騎手の持つJRA新人年間最多勝記録(69勝)に並ぶ
 - 10月12日 4回東京2日目、計9レースに騎乗するも未勝利。4着が最高
 - 10月18日 4回東京3日目、計6レースに騎乗するも未勝利。2着が最高
 - 10月19日 4回京都4日目、計8レースに騎乗するも未勝利。2着が最高
 - 10月25日 3回福島1日目第1レースでアドバンスヘイローに騎乗し1着。87年に武豊騎手が記録したJRA新人年間最多勝記録を21年ぶりに更新する70勝目を挙げた